

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( ~~認知症対応型共同生活介護事業所~~ ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム なつれ	評価実施年月日	平成21年3月12日
評価実施構成員氏名	政氏 孝・田口 千明・太田 洋子・遠山 和義・加藤久美子・片倉 一・永井麻衣子・日紫喜奈央子		
記録者氏名	政氏 孝	記録年月日	平成21年2月27日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	基本理念 私たちは、福祉・環境・少子化の問題について社会に貢献し、全ての人が幸福になれるよう援助していくことを目的とする。 ・笑って 死ねますか(職員全体の理念)	○	わかりやすい理念に取り組んでいる
2 ○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	現在の理念は額に入れて玄関および居間に掲げられている。 基本理念のほかに、笑顔を大切に、などの簡単な標語を掲げ、職員が日々のケアの指針としている。 朝ミーティングやカンファレンス時に理念の共有をはかり、日々取り組んでいる。		
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	ホーム内に理念を掲示し浸透を図っている。運営推進会議等で「その人らしく」生活して頂けるよう支援していることを伝えている。 家族会、地域交流会、運営推進会議にて協力・理解をいただいている。		
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	積極的には行っていないが、できるだけ声かけを行うよう職員には伝えている。 地域交流会の声かけ、地域へのボランティアの声かけ。 ホーム行事への声かけ、運営推進会議の参加の声かけ。		
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に加入し、活動に参加するように心かけている。現状では身体機能低下があり参加していません。 ホームでは「誕生会・おやつ会」等を催し、地域・家族の参加を頂きにぎやかにしている	○	町内会の行事の参加を進め、地域交流に努めていく
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	町内会の行事などに参加できるよう話し合っている。 地域交流会を行い、気軽に来所して頂けるように声かけし、地域の高齢者や家族の相談を受けやすいようにしている。	○	今後地域貢献への取り組みを検討していく

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義と重要なことを理解し、職員間で意見を出し合い、改善の努力を行っている。	○	常に自己評価を行い、改善、工場に取り組んでいく
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議での意見、要望などについて、職員が情報共有し、話し合い、検討し、サービスの向上に努めている。	○	常に職員間で意見交換をし、サービス向上に努める
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	行政との連携はあまり取れていない。必要に応じて電話にて済ませることが多い。生活保護については、担当者が必要に応じて訪問されています。	○	サービスの向上を図る上で、相談をし、意見を頂くように努める
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	現在は利用されている利用者はいないが、今後必要に応じた支援をしていく。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	研修の参加やホーム内でのミーティング等で話し合いを行っている。	○	日々の関わりのなかで、改善、向上に取り組んでいく
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時に契約書の説明を行い、十分納得して頂くようにしている。不安、疑問にもその都度対応している。		
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	・日々利用者に声かけを行い、意見、不満、苦情を聞くようにしている。外部へは運営推進会議で意見交換を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	家族様には、月に1回「なつれ通信」にて利用者・ホームの様子等をお知らせしております 家族様が来所された際にも状況報告をしています。また、何かホームに意見・要望等についてもお聞きするようにはしております。 身体状態の変化等があった際には、その都度連絡等を行っている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族様からの意見要望、指摘事項等は、とても貴重で重要なことなので、できる限り小さな事であっても、行って頂けるよう努力しております。 運営推進会議やなつれ通信等で意見等を頂くようにしております。 運営の反映につなげている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体会議の場や毎日のミーティング等で意見や提案の場を設けている。 運営者に意見、提案について報告し、改善に向けての回答をもらい反映につなげている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	職員間の協力の下、勤務調整を行っている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動はない。		離職があった場合には、人員の募集をかけ、職員配置に心がけている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修にもできるだけ参加させるようにしている。	○	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	交流会の参加を勧めている。	○	他の施設見学や研修に参加できる体制をつくる
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	福利厚生充実、職員間で親睦会を行っている。		
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	色々な研修に参加できるように取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	職員一人ひとりが、利用者の様子を観察し、話しかけ、会話を通して得た情報の共有を図り、受け止める努力を行っている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前生活状況や困っていること、不安に思っていること、様々な情報を収集するようにしている。 入居後も様々な要望や意見等を受け止めるようにしている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	職員が情報を共有し、観察し得た情報を管理者に報告。		利用者・家族と常に話をするように心がけている
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用者と職員がの交流を図っている。その人にとっての馴染みができるように努めている。		利用者・家族とも馴染みの生活環境、雰囲気づくりを行っている
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	常に声かけを行い、昔の事を聞いたりし、学びあえる関係づくりができるようにしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者の日々の生活状況を報告し、家族と共に介護していくことをお願いしている。		月に一回行事を行い、家族にも声かけし一緒に行事を楽しんで頂いている
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	利用者・家族の思いや感謝の気持ちを伝え、より良い関係が築けるようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族・知人または友人の面会を進めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	職員が潤滑油の役割や中和剤となり、一つ的话题を利用者全員で楽しんでいる。共通の話題で利用者同士が共感しあえるような環境づくりを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	他の施設や自宅に戻られた場合には、家族に許可を頂いて面会にするようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の話をよく聞き、希望、意向を把握するように努めている。また、日常の行動をよく観察し、その人らしい暮らしができるように努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴は利用者・家族からの情報と、日々の生活の中から少しずつ聞き把握している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の個人記録・観察と職員間の情報伝達により把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	管理者・計画作成担当者等が情報を収集した内容と家族・利用者の意向をお聞きし、さらに、ケアカンファレンスを行い、介護計画を作成している。作成後は利用者・家族に計画書の説明を行い同意を頂いている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	新規入所にあっては1月後に計画を見直す。その後は3ヶ月ごとにサービス評価・見直しを行っている。状態変化などがあつた場合は、その都度計画の見直しを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	一日の行動や話されている事を記録し、職員がケアの実践や介護計画の見直しに生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	臨機応変な対応がとれる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域交流は定期的に行い、協力をいただいている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	利用者・家族からの意向がない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	利用者・家族からの意向がない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	内科・整形外科、歯科医の往診体制を取っている。協力病院以外の他診療科受診については、基本的には家族が受診同行しているが、可能な限り職員も同行し、情報交換など連携を密にしている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	症状の変化が見られた場合には、専門医受診し、医師の指示を得るようにしている。		



	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	週1回看護師の来所による健康チェックや電話での相談を行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院に際しては、介護添付書類を送り、情報の提供を行い、定期的に家族・病院にとり、退院に備えて連携を図っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時に終末について、家族の考え方を聞いている。看取りは可能であるが、ホームでは看取りを行っていない。できる範囲での支援は行っているが、病院での看取りになっている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	利用者の身体状況を観察し、変化があった場合には、家族・医師に報告している。		
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	個人情報の提供を行ったり、生活環境による変化の状況を伝えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	利用者に関わる上で、言葉使いや行動を十分気をつけるよう、朝のミーティング等で行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	生活に対する思いや希望をできるだけ聞くように、日々話しかけを行なっている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望によって支援している。	職員側の都合で一日を送って頂くのではなく、朝の身体状況を観察しその人にあった行動を取れるようにしている。できる限り利用者の希望を叶えられるようにしている。一人ひとりの生活の流れを重視し、その中で、他利用者との交流もできるように関わっている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	本人の行きつけの店には行けないが、ホームに来所している理容師に本人の希望するカットを聞いて行なっている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備など手伝いが可能な方には行って頂いている。野菜の皮むきやゴマすりなど。食事後の食器の片付けなどできる範囲で行ってもらい、かならず“ありがとう”など労いの言葉をかけている。食事はその人のペースで食べて頂くようにしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	原則は自由ではあるが、身体状況に応じて対応も行なっている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	できる限りトイレでの排泄を行なっていただくために、排泄の声かけ、促しを行なっている。自らトイレに行けない場合には、定時に排泄介助を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は月～土曜日の週6回の中で、週2回の入浴の提供を行っている。入浴時間は13時頃より17時までの体制になっている。利用者の希望や体調に合わせて入浴時間は様々である。ゆっくり入浴して頂き、入浴を楽しんで頂けるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、安心して気持 よく休息したり眠れるよう支 援している。	休息や眠ることについては、自由 にさせていただいています。習慣 でお昼寝をする方や夜間は遅く まで起きている方もいます。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの 支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、楽し みごと、気晴らしの支援をして いる。	掃除の雑巾がけ、洗濯物のたた みなどを行って頂き、役立って いることを実感してもらうよう に関わっている。また、利用者 が以前の暮らしを継続している ような、生活支援を心がけてい ます。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	おこずかいをできる範囲で、自 己管理していただくようにして いる。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援している。	外出希望があればその都度対応 はしている。今は外出の訴えも ない。		
62 ○普段行けない場所への外出支 援 一人ひとりが行ってみたい普 段は行けないところに、個別あ るいは他の利用者や家族ととも に出かけられる機会をつくり、 支援している。	家族との外出は自由に行なえる ようにしている。認知症の方が ほとんどであり、個人での外出 は難しいと思われます。希望が あれば対応する。外出行事も 行なっていく。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが 電話をしたり、手紙のやり取り ができるように支援している。	自由に行なえるようにしている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支 援 家族、知人、友人等、本人の 馴染みの人たちが、いつでも 気軽に訪問でき、居心地よく 過ごせるよう工夫している。	訪問時間や面会場所の設定は していない。自由な状態で、ホ ームの様子などを見ていただく ようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	自由に行動できるようにしている。見守り、声かけ、観察は行なっている。身体拘束について意見交換をしている。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関に鈴を付けたり、様子を観察して注意している。日中は職員が目配りや連携により施錠しない取り組みを行っています。		
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	安全見守りは欠かしていない。一人ひとりの行動を把握し見守り、確認を行なっている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	注意の必要なものは、できるだけ目に付かない場所や残された能力、機能や理解力等を考慮しながら、安全に取り扱っていただけるようにしている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人ひとりの身体機能の状態を把握し、あらゆる危険な場面を想定しながら、見守り、観察を行なっている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変や事故発生時の対応について話し合いを行なってる。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	防災マニュアルがあり、年に2回以上は避難訓練を実施しています。利用者の参加も行っています。避難場所として共同住宅を設定している。夜間を想定して、職員間で訓練の話し合いを行っているが、今後実施も検討していく。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切に した対応策を話し合っている。	常に家族とは話し合いを持っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に 努め、気づいた際には速やかに情報を共有 し、対応に結び付けている。	職員同士での情報の伝達を行い。体調変化や異変の発見に努め、迅速な対応を行 なっている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について理解して おり、服薬の支援と症状の変化の確認に努 めている。	利用者の疾患を理解し、薬の目的等を把握するようにしている。 追加・変更または中止になった薬等については、申し送り簿や医師指示簿記入して いる。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解 し、予防と対応のための飲食物の工夫や身 体を動かす働きかけに取り組んでいる。	食事・水分量については、個人記録に記録し、状況・状態を把握している。 毎朝の体操を行なっていたり、少しでも体を動かしていただくようにしている。		便秘の状態を主治医報告し、指示や薬の対応ができるようにしている。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎 食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた 支援をしている。	一人ひとりの能力に応じて行なっていたり、できない部分については介助してい る。 歯科医師の協力により口腔ケアの指導も受けている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日 を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態 や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分量については、個人記録に記録し、状況・状態を把握している。 献立は、利用者嗜好を聞き出し、偏らないような憂いようバランスを工夫しています。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めが あり、実行している(インフルエンザ、疥癬、 肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種は全員が受けている。 職員については、自己管理の徹底を図っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まないた、布巾、冷蔵庫内等の消毒は十分行い、手洗いについての十分気おつけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	看板を掲げ、春、夏、秋などには花を置いている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	個人住宅を改造したもので、できるだけ家庭的な雰囲気を残しています。ホール(居間)は食卓テーブル・テレビに沿ってソファを置きできるだけ空間を広くとり、遊びや談話など憩いの場となっている。2階の利用者は、階段昇降機を利用して、自由に居間と居室を往来している。壁には手作りの暦や季節の飾りを貼っています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ホールはいつでも気軽に集まれるように、自由な空間としている。テレビを見たり、会話をしたり、趣味などもできるようにしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は改造しているため、形や広さも若干の違いはあります。入居時に居室を見て頂き、その人らしい生活環境をつくって頂き、馴染みの空間になるようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	室温計、湿度計を置き、高温・乾燥しないように配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	身体機能に応じた居室の配置。コール設置。共有の場の手すりの設置。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	物事をわかりやすくするために、壁などに貼り物をしている。 様子を観察しながら、声かけなど十分行い混乱や失敗を防いでいる。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関前に植木鉢や庭には果物に木や、野菜、花を植えている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない</p> <p>介護計画には、その人らしく生活できるような支援になっている。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない</p> <p>職員と会話やレクなどを行なうことで、ホールで過ごされるのが多い。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>押し付けのない、ゆとりのある支援を行なっています。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>リラックスした一日を過ごされています。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>希望者の対応はしている。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>医療連携の確保により、24時間体制で対応できることで安心していただいている。</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>一人ひとりの要望に対応できるように努めていることで、安心した生活が遅れている。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない</p> <p>何かあればそのつど報告、確認の連絡を取り、また、意見、要望などの聞くようにしている。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p> <p>宗教に関係や以前に近所に住んでいた方が来ている。</p>



V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①大いに増えている</li> <li>②少しずつ増えている</li> <li>③あまり増えていない</li> <li>④全くいない</li> </ul>
98	職員は、生き生きと働いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての職員が</li> <li>②職員の2/3くらいが</li> <li>③職員の1/3くらいが</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul> <p style="text-align: right;">利用者にかかわり、一人ひとりの笑顔を見ることを目標としている。</p>
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者が</li> <li>②利用者の2/3くらいが</li> <li>③利用者の1/3くらいが</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul> <p style="text-align: right;">サービスには満足しているが、自己中心的な方もおられ、全ての満足は難しい。</p>
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての家族等が</li> <li>②家族等の2/3くらいが</li> <li>③家族等の1/3くらいが</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul> <p style="text-align: right;">家族はほぼ満足している。職員の交代が頻繁で、馴染みの職員がいなくなることに不安を感じている。</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)